

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22041	事業名	鈴鹿関跡学術調査事業			評価分類	A1	
	事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()							
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	10:歴史文化を生かしたまちづくりの推進				款	10:教育費	
		施策の方向	03:鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用				項	05:社会教育費	
	重点プロジェクト	-				目	05:遺跡調査費		
	事業期間	H 18 年度 ～ R - 年度		主な根拠法令等		文化財保護法・亀山市文化財保護条例			

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	平成18年度より継続的に実施した鈴鹿関跡範囲確認調査により西辺築地堀の存在が明らかとなり、遺跡範囲のごく一部が国史跡に指定されたが、全容解明には至っていない。今後、これらのことを明らかにし、国史跡の追加指定を得ることで鈴鹿関跡の保護を図る必要がある。	鈴鹿関跡	国の史跡指定地の保存と公開活用を図るため、指定範囲の公有地化を図るとともに、保存活用計画を策定する。また、国の史跡に指定された範囲は、埋蔵文化財包蔵地としての鈴鹿関跡のごく一部分であるため、今後、学術的な調査を行い、国史跡追加指定により保護を図る。	国の史跡指定範囲の公有地化を行い、同指定地の整備・公開活用を図るための保存活用計画を策定する。また、学術調査専門委員会の指導・助言をいただきながら発掘調査等を行い、その成果をもって国の史跡の追加指定を目指す。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
	事業計画		○学術調査専門委員会開催 ○総括調査報告書刊行 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		○学術調査専門委員会開催 ○国史跡指定地公有地化 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		○学術調査専門委員会開催 ○保存活用計画策定 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		○学術調査専門委員会開催 ○国史跡追加指定意見具申 ○保存活用計画策定 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業		
	活動実績 (計画通り実施できたか)		市外の文化財保護団体を対象に鈴鹿関跡の現地案内を開催したほか、自治会を対象に出前講座を実施し、鈴鹿関跡の啓発を行う事が出来た。また、学術調査専門委員会を開催し、委員及び三重県教育委員会等の助言を得て、総括報告書の内容の検討と指定地から出土した遺物の実測や遺構の詳細図版の作成を行ったが報告書の刊行には至らなかった。		国史跡指定地である鈴鹿関跡の約3,500㎡を国庫補助事業を活用して公有地化を完了した。昨年度刊行に至らなかった総括報告書を刊行したほか、学術調査専門委員会の指導の下、今後の調査・研究の基礎データとなる城山の地形測量図を作成した。また、地元住民を対象とした出前講座により、鈴鹿関跡に関する普及活動を行った。		昨年度に引き続き調査・研究の基礎データとなる城山の地形測量を行い、赤色立体図を作成した。学術調査専門委員会指導・助言の下、今後の調査・研究の方向性の整理を行った。また、地元住民を対象とし、「亀山市の史跡」について出前講座を行い、鈴鹿関跡を含めた市内遺跡保護の重要性に関する啓発活動を行った。		学術調査専門委員会の指導・助言の下、地形測量3Dデータの赤色立体図化と、これまでに出土した軒瓦の三次元計測を行い、令和5年度からの三次元測量データと併せて、今後の調査研究の方向性検討に必要な基礎データの蓄積を図ることができた。また、「律令三関とその周辺」をテーマとした研究大会において、これまでの調査成果の発表を行うとともに、地元住民を対象とした出前講座を行い、鈴鹿関跡を含めた市内遺跡保護の重要性に関する啓発活動を行った。		
	計画 額	事業費	5,100千円	5,000千円	32,400千円	14,872千円	6,200千円	6,155千円	6,200千円	4,936千円	
			国・県支出金	2,300千円	2,700千円	26,600千円	9,845千円	2,600千円	1,899千円	2,600千円	1,233千円
			地方債		0千円		0千円		0千円		0千円
			その他		0千円		0千円		0千円		0千円
			一般財源	2,800千円	2,300千円	5,800千円	5,027千円	3,600千円	4,256千円	3,600千円	3,703千円
	決算 額	事業費	3,585千円	14,593千円	5,365千円	3,991千円					
			国・県支出金	1,112千円	8,973千円	1,899千円	1,233千円				
地方債			0千円	0千円	0千円	0千円					
その他			0千円	0千円	0千円	0千円					
一般財源			2,473千円	5,620千円	3,466千円	2,758千円					
①期間内計画額(R4-7)		49,900千円	②期間外計画額(R8-)		-	①+②総計画額		49,900千円			

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	4,936千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	国史跡追加指定	鈴鹿関跡(南側)史跡指定に向けた取り組み	活動		計画値	包括調査報告書刊行			国史跡追加指定意見申
					実績値	包括調査報告書内容検討			基礎資料の蓄積中
	普及啓発活動回数	研究フォーラム、現地説明会、出前講座等啓発事業実施回数	活動	回	計画値	2	2	2	2
					実績値	2	1	1	8
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	鈴鹿関跡想定域の地形測量データの赤色立体図化と出土瓦の3Dモデルを作成したことにより、鈴鹿関跡に係る今後の調査研究・保存に向けた基礎データの蓄積ができた。また、例年では1〜2回程度であった行政出前講座を8回実施したことで、延べ262名の参加が得られ、地域の文化財保護や歴史文化を生かしたまちづくり等に関するの普及啓発や、理解を深めることができた。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
鈴鹿関跡	国の史跡指定地の保存と公開活用を図るため、指定範囲の公有地化を図るとともに、保存活用計画を策定する。また、国の史跡に指定された範囲は、埋蔵文化財包蔵地としての鈴鹿関跡のごく一部分であるため、今後、学術的な調査を行い、国史跡追加指定により保護を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	鈴鹿関跡の保存活用は、これまで確認されている西辺築地堀跡全体の史跡指定に向け、これまでの調査研究の蓄積を踏まえた今後の調査・保存方針となる鈴鹿関跡保存管理計画策定が必要となる。この方向性に沿って発掘調査とその成果公表、市史跡指定を経て国史跡の追加指定が可能となるため、長期的な視点での取り組みが必要である。また、作成した地形の赤色立体図や出土瓦の3Dモデルについては、HPへの掲載のみならず学校教育での地域学習の資料化など、具体的な普及啓発について保存管理計画の中に位置付けが必要である。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
	引き続き今後の調査・保存検討の基礎資料の蓄積を図るため、国指定範囲とその周辺の詳細地上レーザー測量と赤色立体図化と令和3年度以降に整理作業に着手した出土遺物についての検討作業を実施する。また、その成果についてHPや出前講座等で公表する。	長期的展望での調査研究・保存活用のため、専門職員の育成など体制を強化する。地形や出土遺物等の基礎データ蓄積や調査・保存活用の方 向性検討、学術調査の継続により、国史跡範囲の拡大に向けた市史跡化を図る。また、鈴鹿関跡を市の歴史文化の魅力として情報発信する。

(履歴)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	B	A	B	A
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)

1次評価者	市民文化部 文化課 まちなみ文化財GL 豊田親臣
最終評価者	市民文化部 文化課長 梅村美奈子